

▼救出方法

- (1)下敷きになっている人に声を掛け、状況を聞き取り、かぶさっているもの下へスコップを差し込みます。
 - (2)スコップを使い、てこの原理を利用して、かぶさっているものを持ち上げます。
 - (3)できた空間に角材などを入れて支えます。
- ※ (1)~(3)の作業を繰り返し、救出可能な高さ確保します。



持ち手の部分に上から下へ力かける



▼てこの原理
支点と作用点の間の長さを短くすればするほど、力の伝わり方は強くなります。

熊本地震におけるスコップの使用例

熊本地震では、ドア枠が簡単に变形し、素手での開閉が困難なケースが多数発生しました。住民は、普段、農業用として使用しているスコップをすき間にねじ入れ、ドアをこじ開けました。

また、破損した瓦の撤去や集積、震災後の豪雨に対する土のうや素堀水路づくり、家屋内や道路側溝の泥の除去などにスコップは役立ちました。



スコップは土のう作りの必需品

熊本地震の被災地では、屋根に被害を受けた住宅の雨漏りを防ぐため、ブルーシートを張って対応しました。そのシートを押さえるのに、土のうを使用しました（写真参照）。また、土のうは避難所などで使用するテントの重しとしても利用されました。

災害などに備え、スコップと併せて土のう袋も準備しておくとう安心です。屋根の押さえなど、屋外で長時間土のうを使用する場合、袋が劣化して破れる恐れがあります。土のう袋を二重にして使う、UV対応の土のう袋を使うなどの工夫をすると良いでしょう。



屋根の上で使用する土のう（熊本県）

(土のうの作り方)

- (1)土のう袋を用意します。（横約50センチメートル、縦約60センチメートルの大きさで、上部に締めて閉じるひも付き）



- (2)二人一組になり、土のう袋にスコップ5~7杯（袋の約6~8割ほど）の土を入れます。



- (3)袋の端のひもを引いて、袋の口を絞ります。（絞る前に土の量を確認しましょう。）



- (4)絞って長くなったひもで、袋の口のまわりを3~4回まわして軽く締めます。

- (5)まわしたひもの内側に、ひもの先を下から上へ通して締めます。

